

無形文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無01-11-1/5)

目 的

わが国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

成 果

現在伝承されている狂言歌謡や謡本、美保神社所蔵楽器、最初期のSPである出張録音盤の中でもほとんど調査がなされていないフランス・パテー盤、文化財保護委員会及び文化庁が行った工芸技術記録について調査研究を行い、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をしつつ伝承の危ぶまれる伝統芸能について実演記録を作成した。

1. 無形文化財、文化財保存技術の伝承研究

現在伝承されている狂言小歌のうち、初期歌舞伎と交流のあった歌謡について、狂言各流の異同を調査し、流儀差のみならず家単位で異なる場合があることなどを指摘した。成果は能楽学会で口頭発表し、金沢大学発行の報告書に掲載した。

室町後期から江戸初期にかけての謡本を調査し、ゴマの向きと旋律の動きについてかなりの程度で対応関係がみられることを立証した。成果は能楽学会大会で口頭発表し、能楽学会の機関誌に掲載の予定である。また、能「梅枝」の桃山時代の旋律を復元し、鉄仙会で上演した。

美保神社所蔵の楽器調査を行い、その成果を島根県立古代出雲歴史博物館で講演した。

無形文化遺産部所蔵の東大寺二月堂修二会の記録に基づいて第6回公開学術講座を開催した。

最初期のSPレコードである出張録音盤の中で、特殊な再生装置（縦振動録音方式）を必要とするため、これまで十分な試聴すらなされてこなかったフランス・パテー盤（明治44年吹込み）について、再生とメディア転換を試み、その収録内容の調査確認を行った。

工芸技術に関しては、特に染織技術に着目し、第35回文化財の保存と修復に関する国際研究集会「染織技術の伝統と継承—研究と保存修復の現状—」を開催した。また、漆工分野、陶芸分野、金工分野に関してはそれぞれ実地調査や資料調査を行った。

2. 無形文化財記録作成事業

① 近年の伝承に変化が著しい宝生流の謡曲について、流儀の長老近藤乾之助師を中心に番謡「松風」の音声記録を行った。

② 連続口演の機会が激減している講談について、一龍齋貞水師と神田松鯉師による実演記録を作成した。一龍齋貞水師による時代物の『仙石騒動』（第1回は2006年2月）は今年度（2011年11月）で収録を完了し、新たに『難波戦記』の記録作成を始めることとなった。世話物は来年度も引き続き『文化白浪』の収録を予定している。

『仙石騒動』 脇坂中務太輔・仙石左京のお取調べ・大団円（一龍齋貞水）

『難波戦記』 結城秀康（一龍齋貞水）

『文化白浪』 出雲崎伝右衛門・お角と伊之助・喜八の意見・薊小僧長崎の御用弁（一龍齋貞水）

『徳川天一坊』 土岐丹後守・越前登場・越前閉門（神田松鯉）

『幡随院長兵衛』 桜川との出会い・鈴ヶ森・桜川の出世（神田松鯉）

①プロジェクト研究 Area2

3. 公開学術講座の開催

10月22日、東京国立博物館平成館大講堂において「東大寺修二会（お水取り）の記録—東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵記録をめぐって—」と題して、第6回無形文化遺産部公開学術講座を行った。入場者数222名。

プログラム

講演Ⅰ 東京国立文化財研究所修二会10年の記録 飯島満

講演Ⅱ 東大寺二月堂修二会の記録作成について 佐藤道子

対談 東大寺修二会の声明いま・むかし—無形文化遺産部の録音を聴きながら—

東大寺龍蔵院 橋本聖圓

東京文化財研究所名誉研究員 佐藤道子

論文

- ・高桑いづみ「『梅枝』と越天楽今様」『銕仙』608 pp.4-5 11.12
- ・高桑いづみ「狂言小舞謡の伝承を考える—野村万蔵家と狂言共同社のフシの比較を中心に—」『金沢大学日中無形文化遺産プロジェクト報告書』17 pp.33-53 12.1
- ・飯島満「『特殊再生装置を要する音盤』パター縦振動レコード」『無形文化遺産研究報告』6 12.3

発表

- ・高桑いづみ「ゴマがあらわす謡のフシー世阿弥自筆本から文秋譜まで—」能楽学会第10回大会 早稲田大学 11.5.7
- ・高桑いづみ「日本の伝統楽器—種類と歴史—」島根県立古代出雲歴史博物館特別講座 島根県立古代出雲歴史博物館 11.6.4
- ・高桑いづみ「狂言小舞謡の伝承を考える」能楽学会例会 法政大学 11.6.13
- ・高桑いづみ「能『梅枝』と小書『越天楽』」銕仙会特別講座 銕仙会能楽研究所 11.11.18
- ・飯島満「Japanese Classical Theater and Audio Materials」国際演劇学会 大阪大学大学教育実践センター 11.8.11
- ・菊池理予「日本における染織技術保護の現状と課題 —わざを守り伝えるために—」第35回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 東京国立博物館 11.9.4

研究組織

○宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、菊池理予、綿貫潤、星野厚子（以上、無形文化遺産部）